



「知識」と「技術」を駆使し、 地域社会への貢献を期待する

岩手県立農業大学校 校長 小原 繁

岩手県立農業大学校 農産園芸学科及び畜産学科の課程を修了した、49名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが晴れて卒業を迎えられたのは、何よりも皆さん自身の努力と研鑽の賜物ですが、ご家族や、指導に携わった担任をはじめとした先生方、そして友人からの助言や励ましがあったからだと思います。

在学中は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため様々な制約を受けながら過ごしました。特に寮内での感染防止のため、学生同士の交流も控えるようお願いしたこともありましたが、海外農業研修など教育プログラムの中止や変更など、たいへん残念に感じたことでしょう。

こうした困難な状況を乗り越えた皆さんは、4月からそれぞれ道を行んでいくこととなります。

国においては、農業施策の憲法といわれる「食料・農業・農村基本法」の改正審議が進められております。この法案は、今後二十年を見据え、食料安全保障や・国内市場の縮小など、予期される五つの課題を踏まえ、「環境との調和した持続的な農業」や、「地域社会の維持」など四つの論点に基づいたものです。私たちは、こうした農業施策の変革にも対応しなければなりません。

皆さんには、本校で身につけた技術力と実践力を存分に発揮し、将来の農業を担う人材としての役割を果たすとともに、地域社会への貢献に努めて欲しいと思います。

これから、自らの夢の実現に向けた本当の意味で「第一歩」を歩み始めることになります。時として困難なことに遭遇することもあるでしょう。本校で過ごした二年間、自身が磨いた「知識」と「技術」を駆使することにより、己の道を力強く切り開いていくことを心から祈念いたします。

令和5年度卒業式挙行



卒業証書授与



卒業生代表、小野寺千華さんの答辞

令和5年度卒業式が、令和6年3月6日に挙行され、本科生49名（農産経営科11名、野菜経営科10名、果樹経営科9名、花き経営科3名、酪農経営科5名、肉畜経営科11名）に卒業証書が授与されました。

校長賞等の表彰、校長式辞、知事告辞、来賓祝辞の後、在校生代表千田小百合さんからの送辞、卒業生代表小野寺千華さんからの答辞、前学生自治会長小野寺千華さんから卒業記念品の贈呈がありました。

卒業生がそれぞれの道で活躍されることを在校生・職員一同大いに期待しています。



在校生代表、千田小百合さんの送辞



決意を新たにした卒業生一同

卒業生からのメッセージ

【農産経営科】 あっという間の2年でしたが、私は農大で多くのことを学ぶことができました。

特に、農業機械を操作し稲作を実践したことで、現場で必要となる技術を身に付けることができたこと、農作物を育てる際にしっかり観察する大切さを学べたのは良かったです。今後農大で学んだことを活かして頑張ります。2年間ありがとうございました。（柳田 成美）



【果樹経営科】 農大では、素晴らしい2年間を過ごすことができました。果樹の栽培技術は勿論、農業全体の移り変わり、世界的な農業情勢についても知識を得られ、就農した際の大きな武器になると確信しています。農大生活を通し、農業者としても、人間的にも大きく成長することができました。浅川先生をはじめ、私たちを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。（中村 太耀）



【酪農経営科】 酪農経営科は、全寮制という環境で友情を深めながら専門的な知識や技術を身に付けてきました。さらに互いに鼓舞し合いながら毎日の搾乳当番も乗り越えてきました。冬の当番は特に大変でした(笑)。卒業研究は協力し合い、全員で5つの研究を成功に収めることが出来ました。及川先生をはじめ、農場職員の方々にはお世話になりました。このご恩を背負い今年から始まる社会人生活を頑張っていきます。（大志田 広大）



【野菜経営科】 私は本校で農業の基礎知識を学びました。入学当初は不安がいっぱいでしたが、次第に慣れていき楽しい学校生活、寮生活を送ることができました。

今後自家就農するにあたり、中野先生や柄澤先生、教職員の方々から学んだことを生かしていきます。この学校に入学して本当に良かったです。二年間大変お世話になりました。ありがとうございました。（内村 夢築）



【花き経営科】 熱意あふれる先生方や明るい仲間に恵まれ、充実した2年間になりました。実際に見聞し、自分の手で触れる、実践的な学びを得ることができました。日々の栽培管理を通じて、観察眼や命を育てる責任感が養われたと感じます。

卒業後は鉢花生産者のもとに就農します。農大での経験を糧に、美しい花を咲かせるべく努力を続けていきます。（岩清水 結衣）



【肉畜経営科】 肉畜経営科は、個性の強い11人がそろっています。個性の強さならどの経営科にも負けません(笑)。この個性の強さのおかげで、とても楽しく農大の2年間を過ごすことができました。みんなありがとう！

また、佐々木先生をはじめ畜産学科の先生方には2年間大変お世話になりました。ありがとうございました！（高橋 康太）



プロジェクト学習の成果発表!!

本校教育の主要な柱の一つであるプロジェクト学習の成果を発表する卒業研究成果全体発表会を12月14日に開催し、本科2年各経営科から選ばれた代表12名が1年間取り組んだ研究の成果を発表しました。

発表会は、本科2年の学生から選出された運営委員によって進められ、東京農業大学の門間敏行名誉教授を審査員長として、農業農村指導士協会、農業法人協会や県の農業関係機関等から選任された審査員により厳正な審査が行われ、最優秀賞1名、優秀賞2名が選ばれました。



最優秀賞

りんごの凍霜害に対応した技術開発
果樹経営科2年
仲野 貴晶

1 課題選定理由

近年の果樹栽培は、気候変動の影響により花の凍霜害の発生が増加しており、経営に与えるダメージは非常に大きい。実際、自家農園でも対策に苦慮している。そこで、誰にでも取り組みやすい凍霜害に対応できる技術を検討する。

2 結果

頂芽での凍霜害被害を想定し、通常は用いない腋芽果を代用した場合の果実品質を調査した(6品種)。その結果、果実肥大は頂芽果よりやや劣るものの、糖度等の果実品質は大差なく、つるサビは頂芽側果より軽度の傾向。また、翌年の花芽率にも影響は見られない事がわかった。



図 試験区別の果実(左:きおう、右:ジョナゴールド)
※左から頂芽中心果、頂芽側果、腋芽果

3 考察

凍霜害の対応策として、側果に加え腋芽果も利用することで、収益減少を緩和できる可能性が高いことが示唆された。今後、複数年のデータを蓄積していきたい。



優秀賞

ピーマンの未熟果と完熟果の両どり栽培法の検討と2色の色味を活かした加工品の開発
野菜経営科2年
高橋 尚子

1 課題選定理由

ピーマンの完熟果は未熟果に比べて栄養価が高く、パプリカよりも加熱調理がしやすいため、一定の業務需要がある。そこで、他県の栽培事例をもとに本県における栽培適応性について検討するとともに、完熟果の甘味を活かしたピーマンが苦手な人にも食べられる加工品の開発に取り組んだ。

2 結果

未熟果栽培から完熟果栽培に切り替える「1作2色どり栽培」が、全期間完熟果栽培よりも、総収量、完熟果収量ともに上回った。1作2色どり栽培の切替時期は、7月下旬が8月下旬に勝った。また、未熟果と完熟果の2色の色味を活かし、ピーマンパウダー入りクッキーやピーマンクリームカップケーキなどを試作した。



図1 完熟果の紹介ポップ



図2 カップケーキ

3 考察

完熟果栽培と加工品の開発により、本県ピーマンのさらなる生産拡大につなげたい。



優秀賞

ぶどうの町大迫活性化プロジェクト〜つながりを活用したプレミアム商品開発〜
果樹経営科2年
高橋 綸

1 課題選定理由

近年のぶどうは大粒種が主流で、地元大迫町の特産であるキャンベルなどの中粒種が衰退傾向になってきている。本課題では、大迫のぶどうの魅力をPRし、地域活性化を図ることを目標に、生産量の維持、向上に向けた省力化栽培方法の検討や新商品開発、SNSでの情報発信に取り組む。

2 結果

テキライグシを用いた摘蕾作業を事前に実施することにより、その後の重労働である摘粒作業が省力化された。「キャンベル」や大迫にしかない希少なワイン用ぶどう「ロースラー」を原料にしたプレミアムジュースを試作製造した。SNSを活用してラベルデザインの協力や試飲評価の協力を得る事により、商品化に近づけることができた。



図1 摘蕾試験の果実



図2 試作ジュース

3 考察

地元ワイナリー入社後も、取り組みを続け、商品化を実現させたい。また、今回つながりができた方々と大迫町の活性化に引き続き取り組みたい。



東日本・全国を舞台にした活躍



- ★東日本農業大学校等プロジェクト意見発表会（北海道,1月）優秀賞
- ★全国農業大学校プロジェクト意見発表会（東京,2月）で優秀賞受賞

東日本農業大学校等プロジェクト意見発表会では、肉畜経営科1年の田澤健太さんと果樹経営科2年の小野寺千華さんが「意見発表部門」に、果樹経営科2年の仲野貴晶さん、野菜経営科2年の高橋尚子さんと果樹経営科2年の高橋綾さんが「プロジェクト発表部門」に出場しました。審査の結果、プロジェクト発表部門で高橋綾さんが見事優秀賞を受賞しました。

また、全国農業大学校プロジェクト意見発表会では、果樹経営科2年の高橋綾さんが「プロジェクト発表部門」に出場し、審査の結果、見事優良賞を受賞しました。

皆さんの頑張りは、学生、教職員とも非常に刺激になりました。



発表者の皆様。頑張りました！
（1月 北海道）



プロジェクト発表の様子！
（2月 東京）

「第34回ヤンマー学生懸賞論文・作文」で、複数受賞の快挙！！

第34回ヤンマー学生懸賞論文・作文の入選発表会が、令和6年2月9日、岡山市で開催されました。415点の応募のあった「作文の部」で、本校果樹経営科2年の中村太耀さんが最優秀となる金賞（作品名：リンゴ農家に生まれて）を、酪農経営科1年の石倉琉星さんが銅賞（作品名：酪農を知れば、自分が変わる。自分を知って、酪農を変える）をそれぞれ受賞しました。本校からは6年連続の入賞、2年ぶりの金賞となりました。

なお、花き経営科1年の齊藤花恋さんも奨励賞を受賞しました。

この受賞を機に、今後皆様がますます活躍されることを期待しています！



左：石倉さん、右：中村さん

JA共済連岩手から農業機械を寄附いただきました！

このほど農大では、JA共済連岩手様の地域貢献活動の一環として、汎用コンバイン、掘取機、背負動力噴霧器を寄贈いただきました。汎用コンバインは、農産園芸学科では小麦や大豆等の収穫に、畜産学科では子実トウモロコシの収穫に活躍する予定です。

また、掘取機や噴霧器も学生の実習や卒業研究で活用する予定であり、いただいた機械類が実習環境の充実に、さらには農業理解の促進に大いに役立つと考えています。誠にありがとうございました。



～ 今後の主な行事予定 ～

4月 5日（金）始業式
4月 9日（火）入学式
4月12日（金）学生健康診断
5月15日（水）学生自治会総会
5月17日（金）父母等面談

4月 8日（月）新入生入寮
4月10日（水）新入生ガイダンス
4月26日（金）全校ガイダンス
5月17日（金）父母の会理事会・総会